

中高生
向け

ひょうご SDGsガイドブック



CONTENTS

兵庫県庁のSDGsの取組紹介 2

■ 企業紹介

但馬・丹波エリア (P.4~21)

株式会社オーシスマップ〈養父市〉	4
株式会社但馬銀行〈豊岡市〉	6
但南建設株式会社〈朝来市〉	8
株式会社トキワ〈香美町〉	10
中田工芸株式会社〈豊岡市〉	12
株式会社ユラク〈豊岡市〉	14
株式会社由利〈豊岡市〉	16
株式会社大地農園〈丹波市〉	18
株式会社小田垣商店〈丹波篠山市〉	20

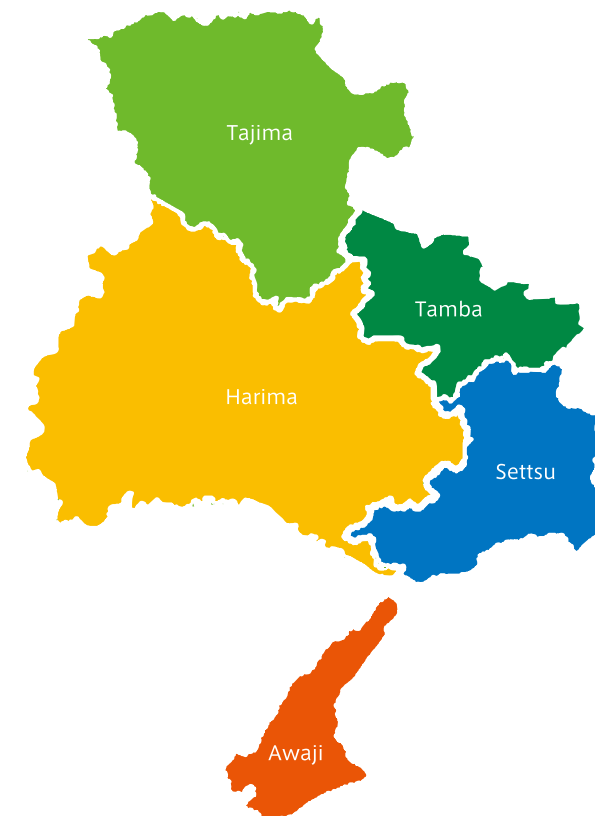
摂津エリア (P.22~51)

株式会社イーエスプランニング〈神戸市中央区〉	22
植垣米菓株式会社〈神戸市長田区〉	24
鐘光産業株式会社〈尼崎市〉	26
神戸環境クリエート株式会社〈神戸市長田区〉	28
株式会社神戸酒心館〈神戸市東灘区〉	30
シン・エナジー株式会社〈神戸市中央区〉	32
株式会社TVE〈尼崎市〉	34
東リ株式会社〈伊丹市〉	36
日本山村硝子株式会社〈尼崎市〉	38
早駒運輸株式会社〈神戸市中央区〉	40
阪神低温グループ〈西宮市〉	42
株式会社ポトマック〈神戸市中央区〉	44
株式会社みなと銀行〈神戸市中央区〉	46
ヤマト住建株式会社〈神戸市中央区〉	48
吉田ピーナツ食品株式会社〈神戸市長田区〉	50

淡路・播磨エリア (P.52~73)

有限会社新家青果〈洲本市〉	52
ホテルニューアワジグループ〈洲本市〉	54
赤穂化成株式会社〈赤穂市〉	56
株式会社池内工務店〈明石市〉	58
伊東電機株式会社〈加西市〉	60
植山織物株式会社〈多可町〉	62
株式会社籠谷〈高砂市〉	64
シモダフランジ株式会社〈相生市〉	66
株式会社田井鐵工〈西脇市〉	68
株式会社阪技〈高砂市〉	70
株式会社二川工業製作所〈加古川市〉	72

あとがき 74



兵庫県庁のSDGsの取組紹介

SDGsがめざす持続可能な発展のためには、あらゆるステークホルダーが連携・協働して、社会課題の解決と地域活性化に取り組むことが重要です。

そのため、兵庫県庁では、自らSDGsに取り組むだけでなく、企業や団体、学校等に呼びかけ、公民連携によりオール兵庫でSDGsの達成を目指しています。

《令和4年度の主な取組》

ひょうごSDGs Hub

SDGsの達成に向けて、企業や団体、学校等の多様な主体が連携し、社会課題の解決と地域活性化に取り組む公民連携組織「ひょうごSDGs Hub」を運営しています。

ここでは、①会員企業等の取組や自治体施策等の情報発信、②SDGsの理解・取組促進のためのイベント等の開催、③社会課題の解決等に向けた公民連携の促進や、会員のSDGsに関するニーズとシーズのマッチングなどに取り組んでいます。



Stage 1	つながる
連携・協働	公民連携による社会的課題の解決や、会員同士の連携・協働の取組を支援
Stage 2	取り組む
自主事業の推進	ひょうごSDGs Hub自主事業や会員が企画する事業への参画
Stage 3	知る
情報発信・共有	ひょうごSDGs Hubホームページ等による自治体の支援施策や会員企業等の取組情報の発信

ひょうご産業SDGs推進宣言事業

SDGsに取り組む県内中小企業等に、目指すゴールや活動方針等を宣言してもらい、宣言内容を広く公表することで、企業のSDGsの取組を後押しするとともに、企業のブランド価値向上に取り組んでいます。

令和5年3月現在、391社が宣言を行い、SDGsに取り組まれており、宣言企業と宣言内容はホームページでご覧になれます。



姫路工業高校デザイン科
生徒作成の宣言企業専用
ロゴマーク



兵庫県庁SDGs WEEK

兵庫県庁のSDGsの取組を発信するとともに、県民の皆様のSDGsに取り組む機運を醸成するため、令和4年10月24日から30日の一週間を「兵庫県庁SDGs WEEK」とし、県庁のSDGs関連施策を集中的に実施しました。

期間中、SDGsに関するシンポジウムやフォーラム、障害のある方が働く事業所による商品即売会、フードライブ運動、職員による海岸清掃ボランティアなど、50の取組を実施し、学生を含め、多くの県民の皆様に参加いただきました。



ひょうごSDGsシンポジウム

+NUKUMORIマルシェ

県庁舎フードライブ

SDGsクリーンアップ作戦

ひょうごSDGsスクールアワード

子ども達が主体となって取り組んでいるSDGsの達成につながる活動に関して、特に先進的な取組を行う学校園を顕彰することで、SDGsの普及啓発を図っています。

《令和4年度最優秀賞》

- 【未就学児部門】 芦屋市立精道こども園
- 【小学校部門】 姫路市立白鷺小中学校（前期課程）
- 【中学校部門】 西宮市立山口中学校
- 【高等学校部門】 東洋大学附属姫路高等学校

※最優秀受賞校の動画は義務教育課ホームページで視聴できます。



地域資源を活用した
自然循環型社会を
目指した取組み



:: レポート :: 大学生による企業のSDGsの取組発信

持続可能な兵庫をつくる学生ワークショップ

企業のSDGsの取組の見える化と、若者の県内企業の認知度向上につなげるため、大学生グループが県内企業を訪問・取材し、企業PR動画を作成・発信するワークショップを実施しました。作成した動画は、県広報SNSのほか、ひょうごSDGs Hubや各企業のHPなどで公開しています。

【実施期間】 令和5年1月～3月



参加大学・企業

大手前大学	×	株式会社 株式会社
関西学院大学	×	日本山村硝子株式会社
甲南大学	×	シモダフランチ株式会社
神戸親和女子大学	×	株式会社 株式会社
兵庫県立大学	×	早駒運輸株式会社

伝わる動画作成講座

大学生による企業訪問に先立ち、毎日放送の協力の下、2月6日に「伝わる動画作成講座」を実施しました。

学生は、毎日放送の報道部員から取材の手法や絵コンテの描き方、撮影・編集のコツ等を学び、また、「クリエイティブに、自由に発想することが大切」という講師の言葉を胸に、制作する動画のイメージを膨らませていきました。



学生は、普段なかなか会うことのない社長を前に緊張しながらも、しっかりと自分の意見を持って対話しました。

この他にも、若手社員との意見交換やSDGsの取組現場視察などを取材しました。



動画のお披露目会

3月29日、県立兵庫津ミュージアムにて、動画のお披露目会を開催しました。

参加した学生からは、「SDGsを意識して取り組み始めたわけではなく、昔から取り組んできたことが実はSDGsに繋がっていることも多い。」
「古くから社内に根付く思いやりの精神が印象的だった」

など、このワークショップを通して学んだこと等について発表があった後、リサイクルや地産地消、クリーンエネルギー、カーボンニュートラル、ダイバーシティなど、企業の取組を紹介する動画を披露しました。

グループによって魅せ方は三者三様ですが、どれも工夫を凝らした素敵な動画に仕上がりました。

県では、今後も企業や学校などのあらゆる主体と連携しながらSDGsを推進してまいります。

動画編集

企業訪問時に撮影した動画や得られた気付きを活かして、各学生グループで動画編集作業を行いました。

編集過程では、再び毎日放送からアドバイスを受けながら仕上げていきました。

大学生による企業訪問

各学生グループが企業にアポイントを取り、訪問日を調整。動画作成講座での学びを活かして、企業の取材・撮影にチャレンジしました。

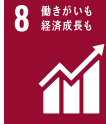
当日は、社長へインタビューを行い、SDGsに取り組み始めたきっかけや今後の展望などについて取材。



《動画閲覧はこちらから》



11 住み続けられるまちづくりを



株式会社オーシスマップ

“人財”を守り、雇用を守ることで地域を持続させる
～あなたの笑顔が目的地～



【事業内容】

■測量、建設コンサルタント

航空測量、調査設計、現地測量、GIS、システム開発
UAV/レーザ計測

【事業方針】

但馬地域において、地域の発展に貢献することを掲げ
社会資本整備の基礎となる『測量』という業務に関わ
る企業として、公益的使命と社会的責任を認識し、常に
未来を見据えた技術改革に取り組んでおります。

◇基本情報

【所在地】兵庫県養父市八鹿町八鹿1264-11

【代表者】代表取締役 魚本 崇

【資本金】1,000万円(2023/3時点)

【売上高】67,613万円(2022年度実績)

【従業員数】72人(2023/3時点)

【HP】 <https://www.osysmap.jp/>

【問い合わせ先】

TEL 079-663-3680

E-Mail info_osysmap@osysmap.jp



事業継続計画の策定

ここが
スゴイ

緊急事態に対応する事前計画で
“人財”を守り、地域の機能を守る

BCP (Business continuity plan: 事業継続計画)

BCP (事業継続計画) の内容

- BCPの基本計画
 - 目的の設定
 - 基本方針
- 被害想定
- 事前対策
 - 安全確認方法の確立
 - 災害・事故時の対応体制の構築
 - 防災行動マニュアルの作成 (自然災害/火災/地震など)
 - 危機回避マニュアルの作成
 - 感染予防マニュアルの作成
 - 被害状況確認チェックリスト
 - 設備の固定対策
 - 業務データのバックアップ対応
- 緊急時の体制図
- BCPの運用と見直し
- 緊急連絡先リストの作成

一般的にBCP(Business continuity plan)とは、自然災害や事故など、企業におけるリスクが発生した場合にその被害を最小限に抑えつつ、事業の継続または早期復旧を図るための計画のことです。弊社では、会社の事業継続に最も大切なものは『弊社メンバー(“人財”)を守ること』と位置づけており、自然災害だけでなく、感染症や火災など、発生する可能性のある事象に対応する事前計画の策定と、それに対するメンバーへの教育実施を行っております。

当然ですが、企業が事業を続けていくためには、地元地域の機能継続が必要不可欠であり、災害など発生した際に自社が無事でも、地域の機能が失われていけば長期的な事業継続は実現できません。弊社で働くメンバーとその家族もまた、多くは地元地域の方々です。その方々を守る、そして地域の機能継続を維持するためにも、地域の方への防災対策・災害支援を平時から行っていく必要があります。

弊社では、業務で使用するUAV(ドローン)を活用した災害時の地域協力体制や地域防災ハザードマップの作成、就業時間内での弊社メンバーの地域消防活動への参加に対する給与補償などを行っております。

満足度向上ミーティングの開催

ここが
スゴイ

会社や地域に対して、より良い環境になる為に何が必要か考え実行する



弊社では「満足度向上ミーティング」というものを、1週間に1回実施しています。管理職を除く、社内の組織を超えたランダムなメンバーで構成され、その中で『お客様の満足度を上げるためには』『会社での満足度を上げるためには』『地域に対して貢献出来ることは』などを題目に、自由な意見を出し合います。出た意見はまとめられ、自分たちで行動できる分は業務時間中でも実行が許され、会社が実行すべき内容については要望し、その内容は会社で検討し基本的に実行されます。

「満足度向上ミーティング」は、会社に対して要望が言える場であるとともに、社内組織を超えた仲間とのコミュニケーションの場でもあり、また顧客満足度や社内満足度、地域満足度などを考える場ともなっています。

これにより会社も地域も、より良くあるためにどうすればよいかを考え実行する環境をつくることで、働きがいがあり、モチベーションを生み出す企業であることを目指しています。

【満足度向上ミーティング:実施実例】

- ・地域のごみ拾い
- ・社内図書室の設置
- ・駐車場の拡張
- ・社内クリスマスツリーの設置
- ・社内クイズ問題の掲示

Q&A

ワークライフバランス

弊社では、ワークライフバランスについて積極的に取り組んでおり、2011年に兵庫県様より「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」を頂き、2013年にはひょうご仕事と生活センター様、2014年には中小企業庁様に事例紹介としてPRビデオに取り上げられました。

社風、社内の雰囲気、会社の魅力

「満足度向上ミーティング」など、社内メンバーの意見に耳を傾け、やる気を生み出す仕組みづくりを心がけています。また、気持ちのいい挨拶や感謝の気持ち、地域への貢献心などを大切に、『メンバー心得 10箇条』として掲げています。

入社すればどのような成長ができるのか

測量業という専門業種であり、知識及び資格のある方が入社されることは稀で、多くは入社後に得ることとなります。しかしながら会社の魅力の一つでもある「モチベーションの高い雰囲気」で、皆が自発的に資格取得や技術開発に取り組んでいます。

目指す会社像、今後の事業展開

近年、ドローン(測量業界ではUAVと言います)やAIなど、新技術が目まぐるしい速度で登場する中、弊社においてもその先を見据えた技術改革に取り組むため、多方面での情報収集や技術開発に取り組んで参ります。

代表者からのメッセージ

ホームページにも掲載していますが、弊社では以下をコンセプトとして掲げています。



代表取締役社長 魚本 崇

『但馬地域において、若い人が目的を持ち、厳しい中にも元気よく、やりがいのある仕事をプロデュース出来る環境をつくり、若者の定着を目指すと共に、地域の発展に貢献出来る一翼となれるよう日々精進致します。』

弊社は、これからも但馬で若者がやりがいを持って、元気よく生き生きと働ける環境を作り続け、皆さんを待っています!

MESSAGE

先輩社員の声

僕が転職先を探していた時期、地域貢献に力を入れているオーシスマップを知り、この会社に入りたいと強く思いました。当然ながら測量に関する知識は皆無でしたが、やる気だけを持って、入社させて頂きました。



営業総務課 関 昌紀

入社後は測量に関する勉強や、業務知識を教えて頂くにあたり、一から順に理解出来るまで優しく教えて頂き、大変ありがたかったです。今では、日々の業務にやりがいを感じ、責任感と向上心を持って、楽しく業務を行っています。

VOICE

8 働きがいも経済成長も

5 ジェンダー平等を実現しよう

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

株式会社但馬銀行

事業活動を通じて地域課題の解決に取り組むことで、持続可能な地域経済・社会の実現に向けて取り組んでいます。



【事業内容】
普通銀行業
(預金、融資、内国為替、外国為替、投資信託・生命保険等の販売)
【プロフィール】
但馬銀行は、2022年11月に創業125周年を迎えました。1897年(明治30年)の創業以来、兵庫県を基盤とする唯一の地方銀行として、堅実経営を信条とし、地域の皆さまから、「地域から最も信頼され、お客さまに価値ある金融サービスの提供を通じて、ともに発展する銀行」を目指しています。今後も、兵庫県下にある65店舗の広域ネットワークを活かし、兵庫県に根差した地方銀行・但馬銀行だからこそできることを追求し、全職員が強いチームワークと行動力で地域のみなさまの生活・仕事をサポートし、地域の活性化に取り組むことを通じて、地域のみなさまから最も信頼される銀行を目指していきます。

◇基本情報
【所在地】兵庫県豊岡市千代田町1番5号
【代表者】取締役頭取 坪田奈津樹
【資本金】54億8,100万円(2023/3時点)
【預金】1兆1,411億円(2022年度実績)
【HP】<https://www.tajimabank.co.jp>
【問い合わせ先】
TEL 0796-24-2111
E-Mail jinji@tajimabank.co.jp



地域経済活性化への取り組み

ここがスゴイ 金融サービスによる地域への貢献!



但馬銀行は、行政や地元企業と連携した地域課題の解決や地元企業へのSDGs取組支援などを推進しています。中でも、SDGs関連のご融資については、資金の使いみちやその資金によってどんな効果が期待できるのかをいろいろな角度から検討したうえで対応しています。令和4年度からは、兵庫県をはじめとした自治体が発行している施策を活用してSDGsに取り組む企業を対象とした融資「SDGs応援ローン」の取扱いを開始しました。また、令和4年9月には、兵庫県が発行する「SDGs債(グリーンボンド)」への投資を行いました。今後も、行政や地域のお客さま等と連携した啓発や取組支援を通じて、地域内でのSDGsを推進していきます。

環境保全や気候変動対応への取り組み

ここがスゴイ 環境負荷軽減を意識した事業活動!

但馬銀行は、持続可能な地域経済・地域社会の実現に向けて努めていくという「但馬銀行SDGs宣言」のもとで、地域の環境保全や気候変動対応に取り組んでいます。たとえば、養父市と連携したカーボン・オフセット(養父市J-VER)を広める活動や利用先を増やすための取組みにより森林保全活動のサポートを行っています。また、但馬銀行の事業活動においても、①店舗等において省エネ設備を導入する、②店舗を新設する際には省エネを意識した設計を採用する(BELS認証:塚口支店)、③環境にやさしい粗品を採用するなど、CO2の排出削減に努めています。持続可能なよりよい社会を実現するため、引き続き気候変動対応等を意識した事業活動に取り組んでいきます。



Q&A

仕事のやりがい

お客様のライフステージや環境を考え、ニーズに合った提案ができたとき、「ありがとう」という言葉に出会える。そんな時、仕事のやりがいと誇りを感じます。

社風、社内の雰囲気

経営陣から一般職員まで距離が近く、アットホームな企業風土が定着しており、キャリアを問わずやる気があれば活躍できる環境があります。

ワークライフバランス

職員の福利向上施策の一環として、有給休暇を利用した連続休暇(長期の休み)が取りやすい環境を整え、ワークライフバランスの実現を支援しています。

求める人物像

- ・協調性があり、明るく、行動力のある人
- ・自分の育った地元を元気にしたいという思いがある人
- ・自主的に行動ができ、向上心のある人

代表者からのメッセージ



取締役頭取 坪田 奈津樹

地方では急速な人口減少が見込まれており、このことは地域経済・社会にとって後継者不足による廃業など深刻かつ大きな影響を与えかねません。このため、当行では預金や融資などの従来の銀行業務のほか、地域のお客さまの様々なニーズへの対応、行政や地域企業と連携した地域の課題解決など、持続可能な地域経済・社会の発展を支える取り組みを行っています。また、地域経済・社会に必要なとされる人材の育成、女性活躍の推進および働きがいのある労働環境の整備に取り組んでいます。

先輩社員の声



渉外係 清水 祥平

就職活動で自分の軸に据えていたのが、「生まれ育った兵庫県で、地域に貢献できる仕事をしたい」という想いです。地域の方の支えになることが地方銀行ならではの仕事だと思い、地域に根付いた『但馬銀行』に就職することを決意しました。最近では、「はじめて会った時よりもしっかりできて、銀行員らしくなったね」と言ってくれようになり、そうしたお客様の一言が、仕事をするうえでの良いモチベーションとなっています。



但南建設株式会社

省エネ住宅・再資源化を通して、
次世代まで安心して暮らせる”まちづくり”に取り組んでいます



【事業内容】

主体は総合建設業として、建築・土木を中心に事業を行っています。
それ以外にも、リサイクル事業や福祉事業（令和4年度に部門が独立し社会福祉法人となりました）や規模は小さいですが農業も行っています。
建設業だけにとどまらず、様々な分野にチャレンジしている企業です。
全スタッフがチームとして、パフォーマンスの高い事業活動を継続することで、「環境」や「社会」により良い影響を及ぼし、SDGsの目標達成にも貢献できるように目指して参ります。

◇基本情報

【所在地】兵庫県朝来市山東町滝田148番地の1
【代表者】衣川 義弘
【資本金】5000万円(2023/3時点)
【売上高】58億1千万円(2022年度実績)
【従業員数】111人(2023/3時点)
【HP】 <https://www.tn-net.co.jp/>
【問い合わせ先】
TEL 079-676-3121
E-Mail honsya@tn-net.co.jp



ここがスゴイ 少ないエネルギーで快適な暮らし 強く、長持ちな住まいの実現



平成15年に住宅建設部門としてピースホーム事業部を開設し、高断熱・高气密で、「省エネ性能」の高い住宅を建設しております。

高断熱・高气密の住宅では、冷房や暖房時のロスが少なくなるため、結果的に電気やガス、化石燃料の消費量を減らすことができます。「少ないエネルギーで快適な暮らし」・「強く、長持ちな住まい」を実現するために、全棟BELS評価（省エネルギー性能表示制度）で最高グレードを獲得し、全棟長期優良住宅の認定を取得しています。

昨年度はZEH比率100%を達成し、住まいづくりを通じて家庭部門のCO2排出量削減へと繋げ地球温暖化防止へ貢献しています。

建物をつくるだけでなく、役目を終えた建設廃材を再び資源として活用し、循環させていく。
資源循環型社会を目指した事業を行っています。

平成16年に開設された南但リサイクルセンターでは、木くずとがれき類（コンクリートガラ、アスファルトガラ）の建設廃材を再資源化しています。

木くずは木材チップに加工し、製紙原料や燃料に活用されます。コンクリートガラやアスファルトガラは破碎して再生砕石に加工することで、様々な建設現場で利用されています。

ここがスゴイ リサイクル事業で資源循環型社会を



Q&A

【仕事のやりがい】

建設業は自分の仕事が建物や構造物として残るので、自分の現場が完成した時はとても達成感を感じます。また、人から感謝されることも多く、やりがいを感じやすい仕事だと思います。

【入社後のキャリアモデル】

建設業には様々な資格があります。会社として、社員の資格取得に積極的に取り組んでいます。
資格取得支援制度があるので、やる気があれば多数の国家資格を取得できます。

【ワークライフバランス】

但南建設は、ワークライフバランス表彰企業に認定されています。兵庫県では139社、内建設業では7社のみとなっています。半日単位での有給取得や誕生日休暇制度の導入など休みを取りやすい環境づくりに取り組んでいます。

【社風、社内の雰囲気、会社の魅力】

若手からベテラン社員まで幅広い世代が集まっており、現場では経験豊富な先輩社員からしっかり仕事を教えてもらえます。社員旅行や若手会もっており、年齢に関係なく社員同士の輪が広がっています。

【代表者からのメッセージ】



代表取締役 衣川 義弘

建設業の役割は地域の安心・安全を守ることです。
そのため、土砂崩れ等防止工事や災害に強いインフラのための工事を行います。
また、省エネルギー住宅の建設、地震に強い免振の建物を建築しております。私たちは建設を通して、持続可能な社会の発展に貢献しております。

MESSAGE

【先輩社員の声】



本店事業部土木部 才本 昌典

建設業は物づくりの仕事です。しかし、構造物は造っただけで終わりません。その後維持していくための修繕や改修工事があったり、最終的には解体や撤去ということになります。インフラ整備を主な仕事とする建設業において、この造って解体するサイクルの中にサステナブルな要素を少しでも多く取り入れていかなければならないと考えています。

VOICE



株式会社トキワ

但馬の自然にありがとう



【会社概要・業務内容】

- ・調味料、飲料の製造販売会社
- ・主な商品
べんりで酢
なんでもごたれ
おかあさんの味、えーだし
梅ごち/梨ワイン

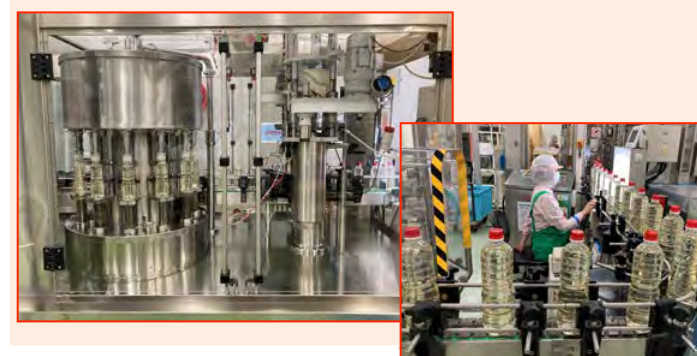
・1912年に創業し2022年110周年を迎えました。マツバガニをはじめとした魚介類や、世界的ブランドの但馬牛等食材豊かな但馬の地で作られた調味料を全国の食卓へお届けしています。

◇基本情報

- 【所在地】兵庫県美方郡香美町香住区三谷735
- 【代表者】柴崎明郎
- 【資本金】2500万円(2022/3月時点)
- 【売上高】19億7千万円(2022年度実績)
- 【従業員数】94人(2023/1月時点)
- 【HP】<https://a-aji.jp>
- 【問い合わせ先】総務部
TEL 0796-36-4001
E-Mail tokiwa@a-aji.jp



ここがスゴイ 軽量ボトル使用に向けた取り組み



トキワでは、ペットボトルの使用量を削減するために、
 ①ペットメーカーの協力を得て軽量ボトルを導入し
 ②軽量ボトルの生産が出来る様に充填設備を改良し
 ③輸送テストによる状況を確認した上で、
 2023年1月より生産を開始しました。
 現在は、1Lボトルでの生産ですが、更に使用量の削減を図るために、360mlのボトルの軽量化も検討し、2024年3月の生産を目指し充填設備の改良を進めています。
 年間使用量の約15%(2022年度比)の削減を目標に社員、一人一人が地球環境の事を考えて商品創りを行っています。

マレーシア Don Don Donkiで試食会実施 (2022年11月)

【何を試食してもらったの?】

- ◆べんりで酢:トマトのピクルス
 - ◆なんでもごたれ:鶏の照焼き
 - ◆えーだし:豆腐(冷奴)にかけて
 - ◆なべのぼんず:さつま揚げにかけて
- 一番人気は鶏の照焼きでした!

【ここが苦労する!】

食文化が違う海外は、味の好みや調理法が違うため、毎回苦労します。でも、それが勉強にもなります。

※Don Don Donkiはドン・キホーテの海外の店名です。

ここがスゴイ トキワの調味料を世界へ発信!



Q&A

SDGsを取り組み始めたきっかけ

香美町においても少子高齢化は重要な問題となっています。この地域ならではの魅力を発信し地域の活性化に繋げていく。そのためにはSDGsへの取り組みは避けては通れません。

ワークライフバランス

- ・有給休暇取得率80%以上
 - ・有給休暇平均取得日数16日
 - ・時間外労働2.4時間/月
 - ・産休育休後の復帰率100%
- しっかり休めてリフレッシュできます。

仕事のやりがい

製造メーカーですが、生産現場だけでなく営業活動での商談、販促物の制作、WEB管理、情報分析、レシピ開発等様々な業務にチャレンジすることができます。

入社後のキャリアモデル

一般職として入社後、現場リーダー、主任、課長、部長へと年齢関係なくチャレンジできます。また、適宜人事異動もありますので様々なスキルが身に付きます。

代表者からのメッセージ



代表取締役
柴崎 明郎

私達は、この但馬・香住の地にて地域の素材を活かしたモノづくりの中から創業110年の時を迎えることができました。これからも、持続可能な社会実現の役立ちに、食を通じた心からだの幸せ実現のために、ともに働く仲間とともに、この地より取り組んでいきます。それが私達の在り方です。

皆さんも、20年先、30年先、みんなが30代、40代になった時の社会(地球、日本、私達のまち)のために何が出来るかを考えて行動していきましょう。

MESSAGE

先輩社員の声



総務部
小林 友行

SDGsの取り組みは田舎の中小企業でも避けては通れません。そのような中でトキワでもSDGsについて学ぶ社員研修を行いました。自社の強みであったり、今後取り組んでいかなければならない課題を自分事として捉えて実践していかなければなりません。この自然豊かな但馬の地で生かされていることに感謝して「但馬の自然にありがとう」を胸に全社一丸で取り組んでいます。

VOICE

5 ジェンダー平等を
実現しよう

8 働きがいも
経済成長も

12 つくる責任
つかう責任

14 海の豊かさを
守ろう

15 陸の豊かさも
守ろう



中田工芸株式会社

ハンガーづくりを通して、世界を豊かにする



1946年創業。木製ハンガー、ディスプレイ什器、インテリアの製造及び販売を行う。
創業以来、アパレル店舗などの業務用を主としてファッション業界に貢献。日本のアパレルブランドの高い要求レベルに応え、品質重視のモノづくりをすることでお客様と信頼関係を築いてきた。製造したハンガーはアパレル以外にもホテルなど様々な場所で使われている。
また、2007年に一般ユーザーに向けてオリジナルブランド「NAKATA HANGER」を立ち上げた。蓄積してきた技術と経験を最大限に活かし、日本製にこだわった高品質な木製ハンガーは、国内にとどまらず海外でも評価されている。

◇基本情報
【所在地】兵庫県豊岡市日高町江原92番地
【代表者】中田修平(代表取締役社長)
【資本金】3000万円(2023/3月時点)
【売上高】8億円(2022年度実績)
【従業員数】63人(2023/3月時点)
【HP】<https://nakatahanger.com/>
【問い合わせ先】
TEL 0796-42-1131
E-Mail info@nakatahanger.com



ペアレント休暇

ここが
スゴイ 法令を上回る内容の育児目的休暇



出産や育児が女性社員のキャリア構築の妨げにならないようにするとともに、男性社員が積極的に育児に参加できる環境を作るために「ペアレント休暇制度」を制定しました。男女の区別なくすべての社員が仕事と子育てのバランスを取り、個人の能力を十分に発揮できる職場にすることを目的としています。この休暇は小学校就学前の子どもを持つ全社員を対象とし、子どもの面談や参観日など、子育てにまつわる様々な目的のために取得可能です。

子育て世代を含む年齢性別の異なる社員でワークショップを行い、社員からの意見を取り入れ、2022年春に現制度を制定。時間単位で業務中の中抜けでも取得可能。男性社員はパートナーのサポートのためにも出産前から取得できる内容としました。

現在、対象男性社員のペアレント休暇取得率は100%。「男性が仕事、女性は家庭」という認識は薄れ、夫婦で子育てに関わるという社内文化が定着してきていると感じます。

性別に関係なく、誰でも活躍できるチャンスを得られる企業風土づくりを目指します。

スノービーチ・プロジェクト

ここが
スゴイ 国産ブナ材を資源として利用推進

2015年、新潟県で雪国新潟本来の植生であるブナを利用し、広葉樹林業の実用化に向けた「スノービーチプロジェクト」が発足しました。新潟県産のブナ材を「スノービーチ」と名付け、大学教授、森林組合、材木店、職人が協力して新たな活用方法を模索し続けています。

日本のブナが国産ブナ材として広く活用され、健全なブナ林の運営と保護が成り立つ未来を思い描き、私たちは「スノービーチプロジェクト」に賛同。2022年3月に雪深い新潟県大白川のブナ林で雪上間伐を体験し、伐り出したブナからスノービーチハンガーを製品化しました。

国産材の利用促進が天然林の保全や生物の生息空間の保護、地域の活性化につながります。育成と活用、再生という循環利用の仕組みを実現するとともに、環境保全と経済的にも有用な森林管理のために継続して取り組んでいます。



Q&A

ワークライフバランス

「ペアレント休暇」だけでなく「ノー残業デー」を実施しています。生産性を上げることで仕事を効率的に行い、プライベートの時間も充実させられるように日々改善を行っています。

社風、社内の雰囲気、会社の魅力

中田工芸には経験も価値観も違う多様な人が集まっていますが、お互いに認め合い、支え合いながら仕事をしています。お客様に感動していただくために技術研鑽、創意工夫を繰り返す活気ある職場です。全社員が自分の仕事に誇りを持っています。

目指す会社像、今後の事業展開

私たちの目標は「世界一のハンガーメーカー」です。世界中に木製ハンガーの魅力を伝えるために「NAKATA HANGER」の海外展開を本格化。インターネットを活用したコミュニケーションを推進しています。将来、リアルの体験の場としてオープンファクトリーを実現したいと考えています。

求めるスキル、人物像

自分で考える人、好奇心旺盛な人、プラス思考で向上心を持っている人など、経験が無くてもチャレンジ精神や意欲がある方を求めます。技術やスキルは入社後の研修や指導を通して身につきます。英語などの外国語を話せる方は歓迎します。

代表者からのメッセージ



代表取締役社長
中田修平

私達はSDG5である「ジェンダー平等」を起点とした働きやすさの追求と、木製ハンガーメーカーとして「環境」への責任ある行動と貢献を軸に、SDGsの取組みを展開しています。普段より「ハンガーで世界を目指す」という前例のないチャレンジを行っていることもあり、新しいことへも臆することなく活動できるカルチャーがあります。海外へ視野を広げれば広げるほど、SDGsを本質的に進めて事業に繋げていくことの重要性を感じます。価値を共有するパートナー達と共に独自のモデルを構築することを心掛けています。

先輩社員の声



営業スタッフより

中田工芸は日本で唯一の木製ハンガー専門のメーカーです。当社にしかできない仕事でたくさんのお客様に出会い、満足いただけることにやりがいを感じます。学生時代に学んだ語学を活かして海外案件への挑戦など、自分たちの挑戦したいことを後押しする風土も魅力だと思います。また、全社員が性別や年代を問わず個々の能力を最大限に発揮しながらイキイキと働き続けられる環境整備も進めています。地元の海岸清掃ボランティア活動への参加など、社員が楽しみながらSDGsに関わり実行する企画も実施しています。



株式会社ユラク

過剰包装の廃止、使い捨てプラスチック備品などを他素材に変更
2025年度までに5種類の製品・サービスで実現する



SDGsの社内講座



森林の整備を通じ地球温暖化防止への貢献 (2回実施)



紙ストロー



電子資料を利用しての会議

【事業内容】観光宿泊事業/外食事業/EC事業
ギフト・雑貨小売事業/海産物販売事業

日本の温泉街で唯一ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンの2つ星を獲得した城崎温泉の観光旅館業務を主幹事業とし、観光宿泊・飲食・小売事業などの接客サービス業を多彩に展開

【お客様満足は従業員満足から】

という考えの元、働きやすい環境づくりにも力を入れ豊岡市ワークイノベーション表彰「安心カンパニー」の第1号として表彰して頂きました。

◇基本情報

【所在地】兵庫県豊岡市中陰639
【代表者】伊藤 清範
【資本金】1,000万円(2023年/3月時点)
【売上高】61,700万円(2022年度実績)
【従業員数】80人(2023/3月時点)
【HP】<https://www.yuraku-group.co.jp/>
【問い合わせ先】株式会社ユラク管理課
TEL 0796-32-4419
E-Mail kanrika2@yuraku-group.co.jp



SDGs研修

ここがスゴイ SDGsアンバサダー講師を招き
社員全員でSDGsを学ぶ



自社にSDGsアンバサダー講師の方にお越しいただき、数回に渡りSDGsの研修をして頂きました。

全員が参加し、分かりやすく、楽しく学べるようにゲーム形式でグループワークをしたり各グループごとに発表をしたりして、社内全体でSDGsへの理解を深めました。

会社として取組めることは何かと考えるだけでなく、ひとりひとりの日々の生活の中で、意識を変えることで、SDGsに取り組めることを再認識する事が出来ました。

2022年「ひょうご産業SDGs推進宣言事業」登録済

使い捨てプラスチック備品を変更

ここがスゴイ SDGsに取り組みながら付加価値を

旅館の全客室に備え付けている使い捨て歯ブラシは毎日多くを消費します。私達が使っているプラスチックゴミが年間900万~1400万トン海に流れているという危機的な状況にある中で、その削減への取組としてプラスチック製の歯ブラシから竹歯ブラシに変更しました。

プラスチックゴミが出ない事に加え、高級感のある製品にしたことで、お客様満足も得る事が出来ました。

海の豊かさを守り、漁業や水産物の養殖、観光を持続的に管理できるようになることで、この先も新鮮で美味しい魚介類をお客様へご提供し続ける事ができます。



Q&A

SDGsを取り組み始めたきっかけ、理由

当然の事だと思いました。出来ることはあるか、あれば即取り組むべきと考え、まずはSDGsアンバサダーの講師の方を招き、社員全員に研修をして頂き、SDGsの事を理解する事から始めました。

仕事のやりがい

お客様へのおもてなしのお仕事ですので、常に「ありがとう」の言葉やお客様の笑顔に触られます。それがモチベーションになり、やりがいになっています。また若い組織で何でもチャレンジ出来る社風ですので、「こうしたらもっと良くなりそう」という事を気軽に提案出来たり、即実行できる環境ですので、自分の提案がお客様の喜びに繋がり、自信の成長を感じられる事もやりがいになります。

求めるスキル、人物像

【IQよりもEQ】心の知能指数の高い方を求めています。難しくそうに聞こえるかもしれませんが、明るく元気で笑顔が素敵な人、一緒に働く仲間を大切にできる人と一緒に働きたいと思っています。協調性を持って前向きに頑張れる方です。

ワークライフバランス

旅館業は中抜け勤務という、朝早く出勤し昼前から夕方まで休憩をし、また夕方から夜遅くまで勤務という働きにくい勤務形態が主流ですが、ユラクでは中抜け勤務を廃止し、朝出勤シフト、昼出勤シフトを確立する事で、ワークライフバランスが取れるよう、働き方改革に力を入れています。

代表者からのメッセージ



代表取締役社長
伊藤 清範

ユラクグループは目指すゴールとして「海の豊かさを守る」を掲げています。過剰包装の廃止、使い捨てプラスチック備品などを他素材に変更します。「2025年度までに5種類の製品・サービスで実現する」という具体的な取り組みを定め、明確に分かりやすくすることにより、会社全体でゴール達成致します！ユラクは学生時代にSDGsの事を学んだ、若い世代のスタッフが、SDGsへの意識も高いと感じています。使命感、達成感、充実感を感じながら、一丸となって取り組んで参ります。

MESSAGE

先輩社員の声



湯楽ゲストサービス
松原 晴香

ユラクに入社するまでは旅館は働いている人の年齢層が高く、母親世代ぐらいの方が多いというイメージがありましたが、ユラクは20代のスタッフが、若く明るい雰囲気、ビックリしました。何でも気軽に相談出来る先輩や上司ばかりで日々笑顔で仕事が出来て、自身の成長も感じられるのがユラクの良いところだと思います。SDGsへの取組としては、旅館のアメニティの歯ブラシをプラスチック製の物から竹歯ブラシに変更しました。SDGsが浸透してきているのでお客様からも「竹なんですね!良いですね」などお声がけいただく事もあります。

VOICE



株式会社由利

「地球にやさしく・使う人にやさしく・持続可能な社会」を実現するために、
進化する鞆創造ブランドになる。



株式会社由利は設立から50年余、国内外のトップブランドの鞆のOEM・ODM製造や4つのプライベートブランドを手掛けています。「鞆創造により人生を豊かにする」というミッションの實現の為に、製造から販売までをグローバルに手掛けています。世界のトップブランドからの需要にこたえるべく、「MADA BY YURI」として高いクオリティの鞆を製造し、世界各国のブランドに輸出しています。ミラノやパリ、フランクフルトなどのヨーロッパやニューヨーク、ラスベガスなどの北米、上海、香港、台湾などのアジアにおいて複数の展示会に継続出展することで、PBブランドの世界市場においての認知度を高めています。

◇基本情報
【所在地】兵庫県豊岡市上陰164-5
【代表者】由利 昇三郎
【資本金】1000万円
【従業員数】210人YURI DANANG 600名
【HP】<https://yurikk.com> <https://yuridn.vn>
【問い合わせ先】
 TEL 0796-23-5201
 E-Mail jinji@yurikk.com

漁網再生素材を使用した鞆の製作と販売

ここがスゴイ スクールリュック等漁網再生素材で鞆を製作し、関連会社で販売中!



本社所在地である兵庫県豊岡市は日本海に面しており、身近にある海をこれから先も守り続けていきたいという思いから、廃漁網再生素材を使用した鞆を製作し、関連会社のアートフィアで全国販売しています。その中で昨今の環境問題を考えた時に、社会に対する啓蒙活動と認知拡大の必要性を感じ、SDGs達成に向けて活動をはじめました。

漁網再生素材と言われてもイメージが湧かない方もおられるかと思いますが、スクールリュックUMIのイベントでは、地元の水族館で小学生以下のお子様がおられるご家族を対象に参加型のゲームを通して、実際に廃漁網再生の素材で作ったスクールリュックを手にとってもらい、弊社の取り組みを知ってもらう良い機会となりました。

また、社員から「竹野海岸をもっと綺麗にしたい!」という声が複数あり、月に1回社員で竹野海岸の清掃を行っています。今後も引き続き売り場以外でのイベント等、啓蒙活動を行いながら、廃漁網再生の素材を使用した鞆を企画し、地球にも優しく、お客様にも寄り添った鞆を作りたいと思っています。2025年には廃漁網再生素材の使用量を本年の使用量から10%UPを目指して社員一同取り組んでいきたいと考えています。

兵庫県豊岡市発のレディースファクトリーブランド、Atelier nuu(アトリエヌウ)。

2025年までに使用するすべての材料を環境負荷の低い素材に統一することを目指し、新商品を頻繁に生み出す従来のサイクルではなく、長くご愛用頂ける普遍的なコレクションを作ることを目指しています。

また、長くご愛用頂く事が究極のSDGsと考え、株式会社由利で生産したすべての商品に対して修理にも積極的に取り組んでおります。年間平均4800本の修理を行っており、10年以上ご愛用頂いた商品を修理させて頂くケースもたくさんあります。これらで分かる傾向を商品開発の段階から生かすことによって、より長くお使い頂けるフィードバックサイクルという管理システムを活用することにより、使いやすく、丈夫で長くご愛用頂ける鞆を目指しています。

目に見えない部分にもこだわり、改良を重ねることで細部に配慮された製品設計、品質の向上を行い、材料の有効活用にもつなげています。

PB商品の再生素材使用率100%に挑戦

ここがスゴイ PBアトリエヌウ製品の主素材再生素材使用率100%へ進行中



Q&A

SDGsを取り組み始めたきっかけ、理由

海外スーパーブランドの生産をする機会があり、日本以上にSDGsの考え方が進んでいる状況に刺激を受け、クオリティだけでなく環境にも配慮した商品作りに取り組むべきことがメーカーとしての責務と感じたからです。

入社すればどのような成長ができるのか

入社後、6ヶ月かけて品質管理・資材・裁断・縫製・企画とモノづくりの基本を学ぶ研修を行っていきます。同時に週一回鞆学校を開催し、専門的なことを学んでいきます。配属後は職種ごとに設定されたスキルマップに従い、キャリアアップできる制度が導入されています。

ワークライフバランス

鞆作りだけでなく、働きやすい会社作りを目指し、有休消化100%、定時退社の徹底、働き方に応じた勤務時間の設定、人事評価制度の導入などプライベートな時間も充実できるような取り組みを行っています。

社風、社内の雰囲気

会社のミッション・ビジョン・バリューに掲げるバリューは、「自発性」「探究心」「仲間を大切に」の3つです。仕事中でも、社内のレクリエーションでも自発性を持って取り組み、仕事はもちろん、遊びも一生懸命(笑)な雰囲気です。

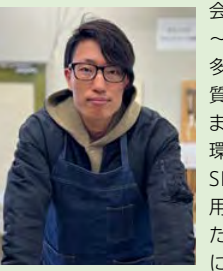
代表者からのメッセージ



代表取締役 由利 昇三郎

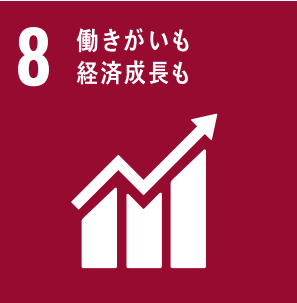
弊社は1964年の創業以来「鞆創造により人生を豊かにする」という経営理念を掲げています。これは今後も変わることのない軸であり、鞆づくりを通して社員の人生はもちろん、鞆づくりを通して社会に貢献していく企業であり続けたいと考えています。そのためには同じ志をもつ社員が集まり「教える」ことの大切さを社員同士で共感して、人が確実に育つ環境作りを目指しています。全く鞆の知識がなくとも、弊社に入社してからゆっくり学んでいただいで構いません。安心して弊社をノックしてください。お待ちしております。

先輩社員の声



企画課 家成 宣紀

会社の良い点はまず設備の充実です。裁断機〜ミシンにかけ、高品質な鞆を素早く且つ数多く作る環境が整っており、社員1人1人が品質にこだわり誇りを持って仕事をしています。またやりたい手を挙げれば任せてもらえる環境もあり働きやすいです。SDGsの取り組みは海に廃棄される魚網を使用したスクールリュックがあります。再生された生地を使うだけでなく、海岸清掃も定期的に行っています。海を守り子供達の未来も守るこの取り組みは私達の誇りです。最後にものづくりに興味がある人は是非、会社見学を!! 社員一同心よりお待ちしております。



株式会社大地農園

大地農園で働くメンバーの心豊かな生活をサポートします。



プリザーブドフラワー & ドライフラワーの製造販売

世界に誇る設備と独自開発の加工技術により世界中の人々に自然の材を通じ、新鮮さと美しさ、感動と安らぎをお届けする企業です。素材は世界30カ国から仕入れ、販売シェアは国内50%以上、海外30%以上に及んでいます。

◇基本情報

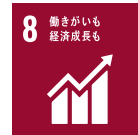
【所在地】兵庫県丹波市山南町きらら通り3
 【代表者】代表取締役 大地 但
 【資本金】5000万円(2023/4時点)
 【売上高】297,000万円(2022年度実績)
 【従業員数】180人(2023/4時点)
 【HP】 <https://www.ohchi-n.co.jp/>
 【問い合わせ先】
 TEL 0795-77-2314
 E-Mail tone@ohchi-n.co.jp



働きがいも経済成長

ここがスゴイ

社員の生活を守る物心両面の支援



社員を応援、社会貢献

お客様に感動と安らぎをお届けすることで、やりがいをもって働くことができ、豊かな人生設計が行えるようになります。

ジェンダー平等

ここがスゴイ

生活と仕事が両立できる企業



女性活躍に向けた取り組みが評価されました。

- 多様な働き方の実現
- 柔軟な勤務体制
- 短時間正社員制度
- 女性の管理職の登用



ひょうご女性活躍推進認定

Q&A

社風、社内の雰囲気

男女の分け隔てなく雇用され平等に働ける、失敗を恐れずチャレンジできる社風

入社後のキャリアモデル

事業全体を体験して仕事の役割・必要性を理解するため、6カ月～1年かけて各現場を研修後に配属しています

求めるスキル、人物像

前向きに行動できる人
 新しい創造ができる人
 粘り強く仕事に取り組める人

今後の事業展開

世界に誇る設備と技術でより良い品質を追求し、国内のお客様を大切にしながら世界を目指していく

代表者からのメッセージ



代表取締役 大地 但

企業活動はエネルギーをたくさん使います。使う量を減らす技術改革を行い、できることを一歩ずつ進め、地球を守ります。

MESSAGE

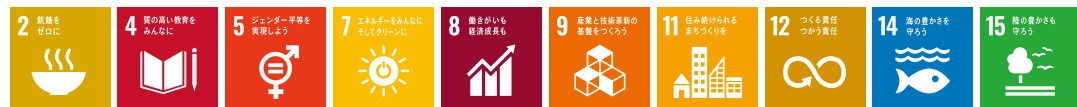
先輩社員の声



見田 知一

入社して1年、現在は技術開発課で新商品の加工テスト等に取り組んでいます。加工テストをする中でもSDGs12の「つくる責任、つかう責任」の目標がありますので、私も意識して仕事に取り組んでいます。日々の生活においても、ひとりひとりがSDGsを意識していきましょう。

VOICE



株式会社小田垣商店

丹波黒大豆の伝統を守りながら世界へ発信



【事業内容】 豆類・各種加工品卸小売業・飲食業
【本店住所】 兵庫県丹波篠山市立町 19
【営業時間】
 本店ショップ 9:30~17:30
 カフェ 11:00~17:00(16:00LO)
【定休日】
 本店ショップ 年末年始のみ
 カフェ 木曜日(祝日の場合は翌平日) 年末年始
【主要取引先】 全国和菓子舗 料亭 食品問屋 百貨店 食品メーカー 量販店 一般ご家庭など
【主要仕入先】 丹波篠山市内生産者 生産組合 各地農業協同組合等

◇基本情報
【所在地】 兵庫県丹波篠山市立町9番地
【代表者】 代表取締役社長 小田垣 昇
【資本金】 3800万円(2023/3月時点)
【売上高】 301,300万円(2022年度実績)
【従業員数】 80人(2023/3月時点)
【HP】 <https://www.odagaki.co.jp/>
【問い合わせ先】
 TEL 079-552-2369
 E-Mail info@odagaki.co.jp



持続可能な農業への支援活動

ここがスゴイ 在来品種の丹波黒を守り続けている



- 生産者への栽培支援
毎年国内各地の生産大会や圃場へ赴いての生産振興、そして生産者の栽培負担軽減と気候変化に対応した栽培方法の指導に取り組んでいます。
- 黒豆栽培技術の継承と向上
当店独自の栽培技術教本「黒豆便り」を作り生産者の栽培技術向上、そして地域の生産者と「本物の豆の会」を作り昔ながらの自然乾燥や手力収穫技術の継承活動を行っています。
- 遺伝的多様性の維持
明治時代の種苗業の頃から丹波黒大豆の種子を育種・選抜・継承し、品種改良や遺伝子組み換え技術に頼ることなく、今でも在来品種の丹波黒を大切に守り続けています。
- 有休農地活用した安定供給への取組み
有休農地を減らして黒豆と小豆の生産量を増やすため、近隣の空いている農地を借り受けて自ら農業参入し、黒豆と小豆の栽培に取り組んでいます。

地域社会への貢献

ここがスゴイ 丹波篠山の名と黒豆の素晴らしさを広く全国へ発信



- 子供たちへ食育活動
小学生や保護者を招いて当店工場見学や手選り体験、黒豆圃場での栽培・収穫などを通じた食育活動に取り組んでいます。
- 地域貢献活動
明治初期より地元生産者へ黒豆の種子を紹介して普及させ、昭和初期より丹波篠山の名と黒豆の素晴らしさを広く全国へ発信し、地域貢献を行っています。
- 地域イベントや奉仕活動への参加
デカンショ祭りや春日祭りに会社を挙げて参加し、地域の観光協会、商工会、商店会連合会、納税協会、警察友援会、ライオンズクラブ、ロータリークラブ等、各種団体に積極的に参加して、地域への奉仕活動を行っています。
- 赤い羽根共同募金活動参加
赤い羽根共同募金「募金百貨店プロジェクト」の「じぶんの町をよくする」趣旨に賛同し、令和3年10月より当店ショップと通信販売の黒豆茶売上1%を丹波篠山市共同募金委員会へ寄付し、地域福祉推進活動に協力いたします。

Q&A

SDGsを取組始めたきっかけ、理由

世界中でSDGsの推進が始まる前から、生産者との連携を大切にしながら「取扱い特産物の廃棄ゼロ」の取組を行い、安全な黒豆生産と生産者に信頼されるサポートを日々心掛けている。そのようにして社会貢献性の高い経営方針を貫いてきた。

求めるスキル、人物像

お客様に寄り添った対応を心がける事が出来る人。商品開発や通販の企画・運営がある為、情報感性が高い、又はデータ分析の得意な方。畑や工場の現場仕事が好きな方。明るくて前向きな方。

社風、社内の雰囲気、会社の魅力

若手のうちから様々な経験ができ、自分のアイデアを製品として、形に出来る可能性があり、研修制度が充実している。敷地内に営業部・通信販売・工場・ショップなど様々な部署があり、他部署で連携を図っている為様々な仕事内容について知ることが出来る。

目指す会社像、今後の事業展開

私たち(会社と従業員)だけではなく、お客様も生産者の方たちも地域社会も「四方皆が良し」になるために、安心して黒豆を作り続けられる環境をつくり、多くの方に丹波黒大豆を知っていただけるように発信していきます。

代表者からのメッセージ



代表取締役社長 小田垣 昇

当社は現在国登録有形文化財10件の建物を「古くて新しい」をコンセプトに、ショップやカフェ、芸術的な宿泊施設にリノベーションして未来に残し、丹波黒豆と地域文化の素晴らしさを国内・世界へ発信して地域社会に貢献する取組を行っています。今後も自然と共生しながら生産者が持続して黒豆を栽培できる環境を作り、また地域へ波及する活性化に取組み、社員と共に持続できる地域社会への貢献活動に取り組んでいきます。

MESSAGE

先輩社員の声



小田 葵

小田垣商店では、黒豆の文化を継承するだけでなく、SDGsに関わる様々な事業に携わっています。私は地元で貢献したいという想いがあります。黒豆の良さを知ってもらってだけでなく、SDGsに取り組むこともまた、地元で貢献することに繋がるのだと実感しました。黒豆文化の継承に限らず、SDGsにも力を入れていることも認識していただくと嬉しく思います。

VOICE